

# 景況調査

報告書 NO. 75

平成29年 4月～6月 実績  
平成29年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成29年度第1四半期(H29. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成29年6月7日～23日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 112[105企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	11 (2)	16 (1)	16	11 (1)	8	112 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比で△4.4、前期実績(1～3月△15.4)に比較すると11.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前年同期比では△2.7、前期実績(1～3月△13.7)と比較すると11.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△14.4ポイント、前期実績(1～3月△26.4)と比較すると12.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△8.9、前期実績(1～3月△16.3)と比較すると7.4ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H29.7～9月)見通し**については2.7、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △4.4)と比較すると7.1ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は閑散期の反動で業況は回復も概ね前年同期比並み。織物は、多重織りガーゼ素材は受注が順調で稼働率が高かった。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは、下半期の動向は昨年に比べ低迷している状況。鉄工のうち**工作機械**関係は受注動向は前年同月比で2～3割の増加傾向。海外向けも回復基調。**自動車**関係はトヨタ国内日当たり生産は、やや弱含みで1万2千台前後で推移した。**化学**は中国経済の回復で輸出堅調。国内向けも堅調。**プラスチック**は売上高は増加したものの原材料高による利益率の低下がみられた。

「**建設業**」は、年度末需要の反動もあり、売上・総合は下降。収益は横バイと厳しい時期であった。

「**卸売業**」のうち、**繊維卸**は<産業資材>米新政権による好景気期待も回復傾向見えず。国内も先行不透明感で慎重な動き。価格の見直し要請もあり厳しい。<インテリア>4月は順調。5月はGW開けから中旬にかけて落ち着く。6月は閑散期も例年並み。通期では概ね昨年並み。<アパレル>全体的に低調、先染め多重ガーゼ、細番手四重、六重ガーゼ、綿や麻等の天然素材には動きあり。(繊維部会)

「**小売業**」は、消費意欲が低調で売上・収益・総合ともに下降した。**石油等その他小売**は、原油価格(WTI期近物)は50ドル前後で推移し、大きな変動はない状況であった。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は4～6月の宿泊者数ではインバウンド及び日本人ともに前年より1割程度の減少傾向となった。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**では完成車輸出が微減。他の輸出は堅調。**旅客関係**では、貸切バス新制度の関係で少人数グループが電車利用へシフトし若干マイナスも、旅行部門は前年並。宿泊よりも日帰りが好調。

**設備投資状況**は、41事業所(58件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は37事業所(47件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では売上の停滞・減少・利幅の縮小、人手不足、競争激化、原材料(燃料)高が項目別で上位を占めていた。

当地区において

平成29年度第一期にあたる当期は、にDI値は水面下ながら売上・収益・総合ともに横バイの傾向が見られた。拡大基調にあるとされる国内景気の影響は、当地区において限定的であったが、アジア・米国・欧州等の景気回復は輸出関連産業に好影響をもたらした。一方で、原材料高を懸念する声も寄せられ、売上とともに利幅縮小を訴える声も多く寄せられた。地方における個人消費がの停滞感が長引く状況で、本所では平成29年度以降の新アクションプランの実行を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

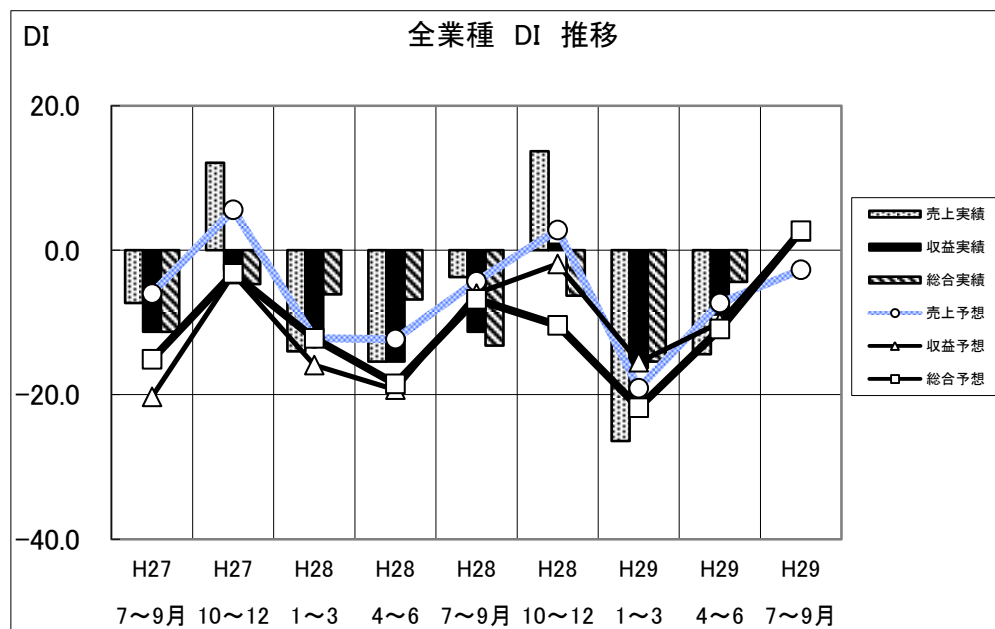
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-8.0	-14.4	-2.7	H28. 4～6月実績	-14.6	-15.4	-17.9	-15.4	-6.8	-6.8	-6.8
②製品・商品在庫	-9.8	-10.7	-6.2	H28. 7～9月実績	-14.2	-3.7	-15.1	-11.3	-15.1	-13.2	-10.4
③資金繰り	-0.9	-0.9	-0.9	H28. 10～12月実績	-7.2	13.7	-13.6	0.9	-14.5	-6.3	-21.8
④採算(収益)	-1.8	-8.9	2.6	H29. 1～3月実績	-9.1	-26.4	-9.1	-16.3	-13.7	-15.4	-10.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	2.7	-0.9	1.7	H29. 4～6月実績	-8.0	-14.4	-1.8	-8.9	-2.7	-4.4	2.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-2.7	-4.4	2.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H28.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-7.3	12.1	-14.0	-15.4	-3.7	13.7	-26.4	-14.4	-2.7
収益	-11.3	-2.8	-11.4	-15.4	-11.3	0.9	-16.3	-8.9	2.6
総合	-11.3	-4.7	-6.1	-6.8	-13.2	-6.3	-15.4	-4.4	2.7

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は8.0、前期実績(1~3月期(△18.8))に比して26.8ポイントの上昇、収益DI値は14.0、前期実績(1~3月期(△13.2))に比して27.2ポイントの上昇、総合判断DI値は18.0、前期実績(1~3月期(△7.6))に比して25.6ポイントの上昇と、総合・売上・収益ともに上昇となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに上昇の見通しとなった。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月~6月 に比べて	前期比 平成29年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	6.0	8.0	2.0
②製品・商品在庫	-2.0	-4.0	-4.0
③資金繰り	-6.0	6.0	-4.0
④採算(収益)	10.0	14.0	8.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.0	10.0	6.0
⑥貴社の業況(総合判断)	10.0	18.0	4.0

### [食料品]

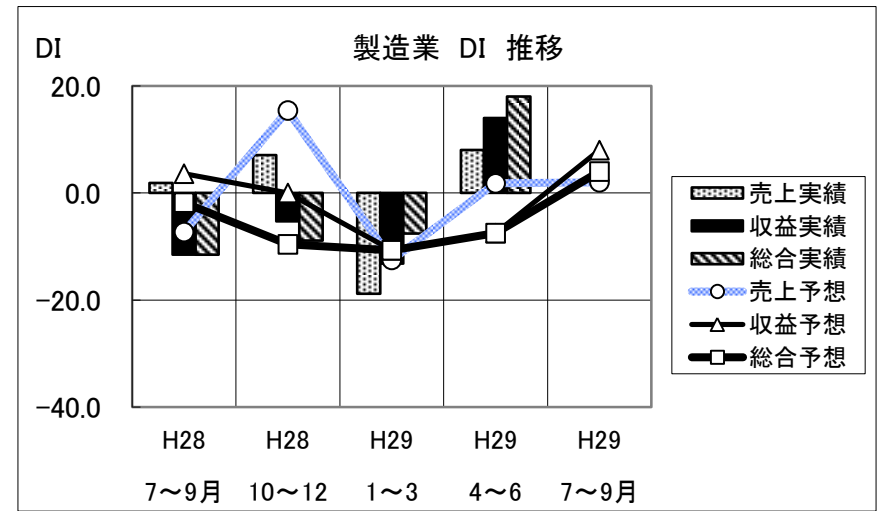
売上は前期比DI値は75.0%と上昇、前年同期比ではDI値0.0%と横バイ。収益では、前期比DI値で50.0%と上昇、前年同期比では△25.0%と下降。総合判断では前期比DI値は75.0%と上昇、前年同期比はDI値0.0%と業況は横バイとなった。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値△25.0%、収益DI値△50.0%、総合判断DI値△25.0%と、当期に比べて業況好転は悪化する見通し。材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下にある。いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

### (食料品)

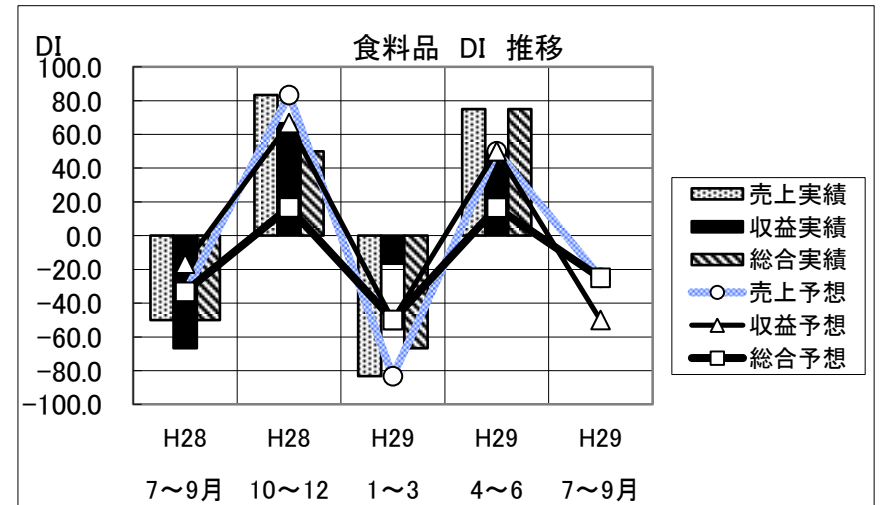
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月~6月 に比べて	前期比 平成29年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	75.0	-25.0
②製品・商品在庫	-25.0	25.0	-25.0
③資金繰り	-25.0	75.0	-50.0
④採算(収益)	-25.0	50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	75.0	-25.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	1.9	7.1	-18.8	8.0	2.0
収益	-11.5	-5.3	-13.2	14.0	8.0
総合	-11.5	-8.9	-7.6	18.0	4.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-50.0	83.3	-83.3	75.0	-25.0
収益	-66.7	66.7	-16.7	50.0	-50.0
総合	-50.0	50.0	-66.7	75.0	-25.0

## 【織物】

寝装関係は、多重織りガーゼが堅調で安定して受注。一方でインテリア向のジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

### 向こう3カ月の見通し

寝装関係について、多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	20.0	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-40.0	-20.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	20.0	20.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	20.0	0.0

## 【漁網・ロープ】

下半期の動向は昨年に比べ低迷している状況。従業員以外のいずれの数値でも下降の傾向となっている。

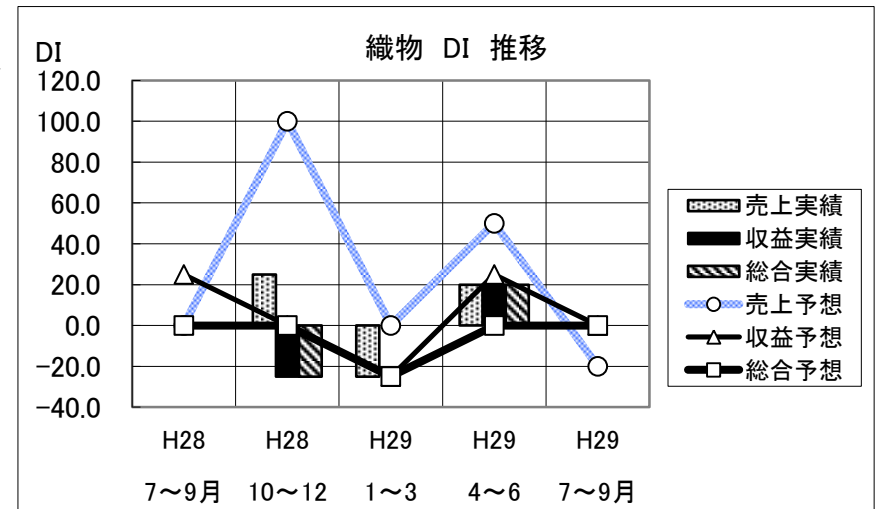
### 向こう3カ月の見通し

今後、電気・ガソリン等の値上がりも予測され、経費の増加が懸念されている。五輪関係による建設需要等を期待している。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

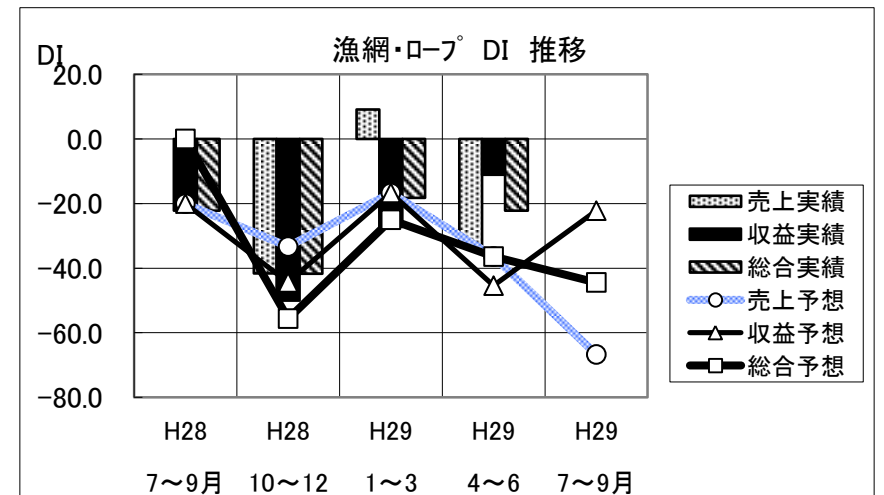
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-33.4	-66.7
②製品・商品在庫	-22.2	-22.2	-22.2
③資金繰り	-22.2	-11.1	-22.2
④採算(収益)	-33.3	-11.1	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.4	-22.2	-44.4



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	25.0	-25.0	20.0	-20.0
収益	0.0	-25.0	0.0	20.0	0.0
総合	0.0	-25.0	0.0	20.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-41.6	9.1	-33.4	-66.7
収益	-22.2	-50.0	-27.3	-11.1	-22.2
総合	-22.2	-41.7	-18.2	-22.2	-44.4

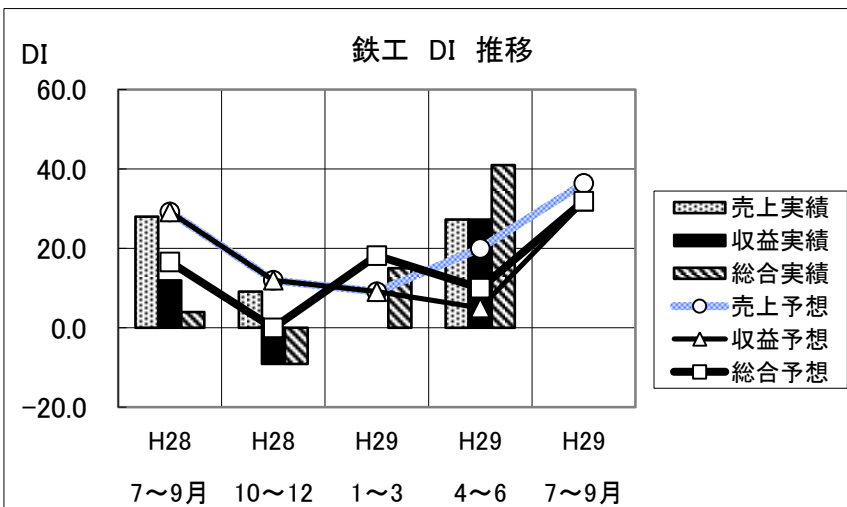
**[鉄工]**

<工作機械関係> 国内生産の受注動向は、4月1,316億円、5月1,277億円、6月は1,402億円と、4~6月とも前年同月比で2~3程度の増加傾向。海外向けも、アジア・欧州向けが好調で回復が鮮明になった。向こう3カ月の見通し 中国・米国はじめ旺盛な設備需要を背景に強含みの推移が予測されている。

<自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、年度末商戦の反動で4月を底に、4月~6月期は1万2千台前後で推移。向こう3カ月の見通し 7~9月期は日当たり1万2千台後半での推移が予測されている。海外は海外も北米・中国・アジアとも堅調な生産が続く見通し。(金属鉄工部会)

**(鉄工)** (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月~6月 に比べて	前期比 平成29年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	36.4	27.3	36.4
②製品・商品在庫	13.7	4.6	4.5
③資金繰り	9.1	13.6	9.1
④採算(収益)	36.4	27.3	31.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	13.6	9.1	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	36.4	41.0	31.9



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	28.0	9.1	0.0	27.3	36.4
収益	12.0	-9.1	0.0	27.3	31.9
総合	4.0	-9.1	15.0	41.0	31.9

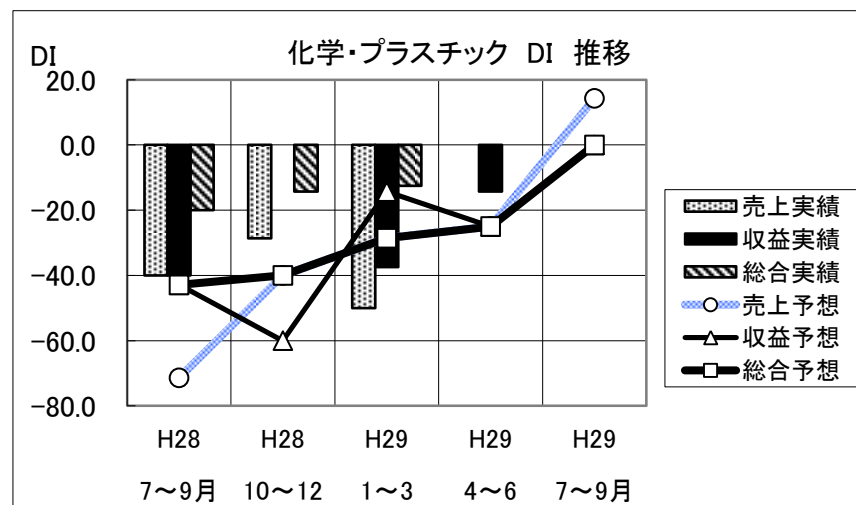
**[化学・プラスチック]**

<化学工業> 中国向け輸出、国内向け出荷、いずれも堅調である。向こう3カ月の見通し 販売数量は堅調と予測。売上・利益は為替動向次第の見通し。

<プラスチック> 売上高は増加したものの原材料高による利益率の低下がみられた。向こう3カ月の見通し 原材料価格は、このまま推移すると見込まれるため、価格転嫁を進められないと利益は減少する見込みである。(化学部会)

**(化学・プラスチック)** (DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月~6月 に比べて	前期比 平成29年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	14.2	0.0	14.3
②製品・商品在庫	14.3	14.3	0.0
③資金繰り	-28.6	-28.6	0.0
④採算(収益)	-14.3	-14.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-40.0	-28.6	-50.0	0.0	14.3
収益	-40.0	0.0	-37.5	-14.3	0.0
総合	-20.0	-14.3	-12.5	0.0	0.0



## 建設業

売上DI値は△54.5、前期実績1～3月期(△45.4)に比して9.1ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績1～3月期(△27.3)に比して27.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△18.2、前期実績1～3月期(△18.2)に比して横バイ。年度末需要の反動もあり、売上・総合は下降。収益は横バイと厳しい時期であった。

向こう3カ月の見通し 売上は横バイも、収益・総合は上昇の見通しとなっている。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-36.4	-54.5	0.0
②製品・商品在庫	-9.1	-9.1	-9.1
③資金繰り	-18.2	0.0	0.0
④採算(収益)	-18.2	0.0	18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	9.1	-9.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.3	-18.2	9.1

## 卸売業

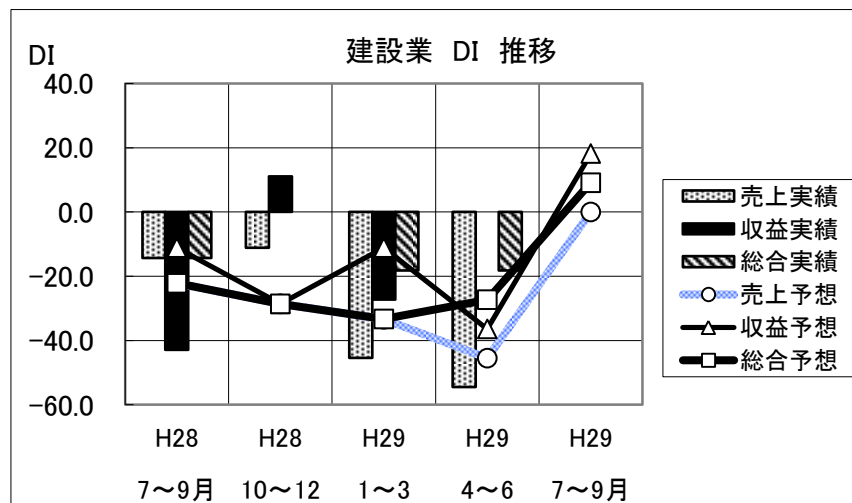
売上DI値は12.5、前期実績1～3月期(△60.0)に比して72.5ポイントの上昇。収益DI値は△18.7、前期実績1～3月期(△20.0)に比して1.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△18.7、前期実績1～3月期(△30.0)に比して11.3ポイントの上昇と、収益・総合は水面下ながら数値の上昇がみられた。

向こう3カ月の見通し 売上・総合は下降、収益は横バイとなる見込みである。

## 卸売業

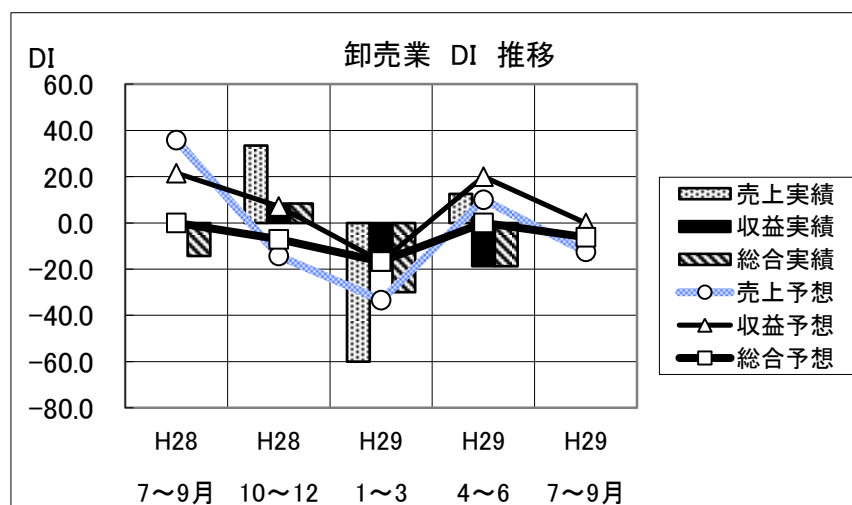
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-6.3	12.5	-12.5
②製品・商品在庫	-25.0	-31.3	-12.5
③資金繰り	6.2	0.0	-6.3
④採算(収益)	-18.8	-18.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.2	6.3	-6.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.2	-18.7	-6.2



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-14.3	-11.1	-45.4	-54.5	0.0
収益	-42.9	11.1	-27.3	0.0	18.2
総合	-14.3	0.0	-18.2	-18.2	9.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	0.0	33.4	-60.0	12.5	-12.5
収益	0.0	8.4	-20.0	-18.7	0.0
総合	-14.3	8.4	-30.0	-18.7	-6.2

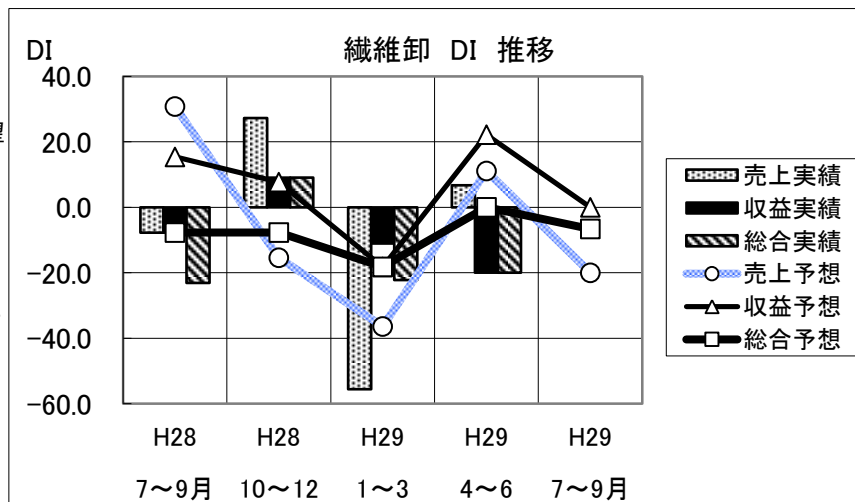
## [繊維卸]

<産業資材>米新政権スタートで好景気を期待したが回復傾向は見えず。国内景気判断も上向きという報道も、先行不透明感が強く慎重かつ荷動きは低調。更に、価格の見直し等の協力依頼もあり情勢は厳しい。向こう3カ月の見通し 消費低迷の中、春夏物商戦にもう一つ活気がなくシーズンが終わろうとしている。先の見えない状況で顧客要望を叶えるよう、必要な商品を迅速に手配していく。<インテリア>4月は3月に続き順調に推移。5月はGW開けから中旬にかけて落ち着く。6月は閑散期で受注減も例年並み。通期では概ね昨年並みとなった。向こう3カ月の見通し7・8月は天候に左右されるも、比較的販売数は伸びる傾向。9月は秋物商材の導入も控える。例年並みか、やや上回る手応え。<アパレル全体的に低調、動きの良かったものは先染め多重ガーゼ、細番手四重、六重ガーゼなど。他には綿とレーヨンの複合素材も動きが見られた。または、綿や麻等の天然素材が売れ筋でボタニカル柄は今期も好調との声も寄せられた。向こう3カ月の見通し 市場の売行きが良くないため先が見えない。多重ガーゼは引続き好調か? また、夏物低価格品中心で数量・売上確保が難しい。秋冬の新企画に期待との声も寄せられた。多い。(繊維部会)

### (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-6.6	6.7	-20.0
②製品・商品在庫	-26.6	-33.3	-13.3
③資金繰り	6.6	0.0	-6.7
④採算(収益)	-20.0	-20.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	6.7	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.7	-20.0	-6.6



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-7.7	27.3	-55.6	6.7	-20.0
収益	-7.7	9.1	-11.1	-20.0	0.0
総合	-23.1	9.1	-22.2	-20.0	-6.6

## 小売業

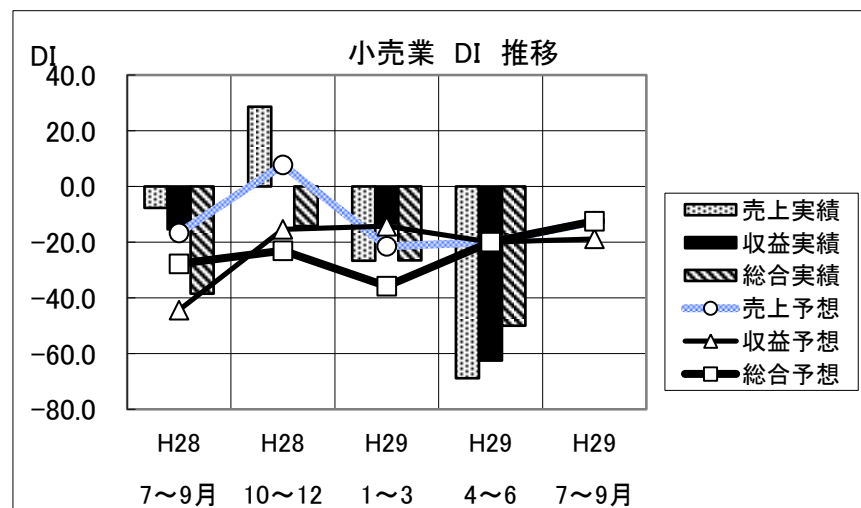
売上DI値は△68.8、前期実績1~3月期(△26.7)に比して42.1ポイントの下降。収益DI値は△62.5、前期実績1~3月期(△13.3)に比して49.2ポイントの下降、総合判断DI値は△50.0、前期実績1~3月期(△26.6)に比して23.4ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに下降した厳しい時期となった。

向こう3カ月の見通し 消費意欲の停滞が続き、いずれの数値も引き続き水面下の見通しとなっている。(商業部会)

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-41.1	-68.8	-12.5
②製品・商品在庫	-31.3	-25.0	-18.8
③資金繰り	-6.3	-31.3	0.0
④採算(収益)	-18.7	-62.5	-18.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-18.7	-25.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-50.0	-12.5



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-7.7	28.6	-26.7	-68.8	-12.5
収益	-15.4	0.0	-13.3	-62.5	-18.8
総合	-38.5	-14.3	-26.6	-50.0	-12.5



## [飲食]

状況にあまり変化はなく、横ばい状態が続いている。お昼のランチはある程度利用頂けるが、夜の一般客は少な目の状態である。夜のお客様は、予約客が大半で小グループでの利用であるが、大変ありがたいと感じている。形原温泉あじさい祭の周辺地区では、立ち寄り需要があった。

向こう3カ月の見通し 7月～9月に関しても状況的な変化はあまりないと思うが、観光客が最も来訪されるシーズンなので、少なくとも例年なみは期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0

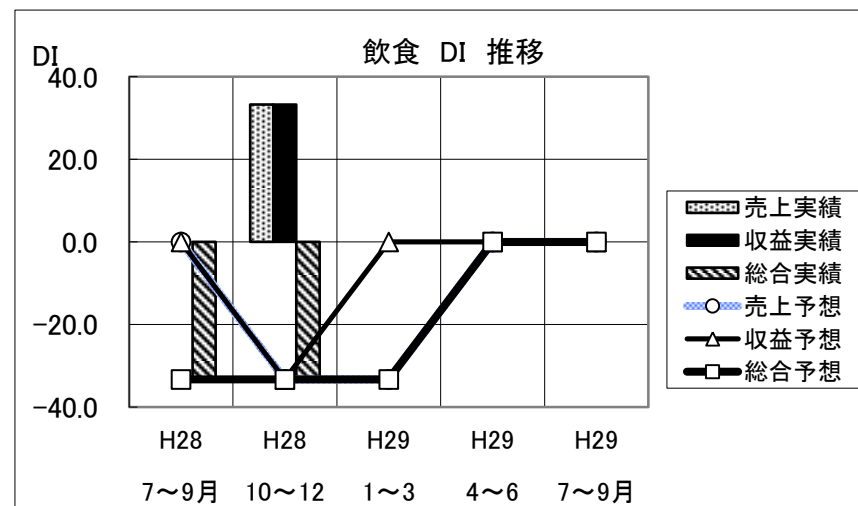
## [石油等その他小売]

原油価格(WTI期近物)は、米国によるシリア攻撃に伴う地政学リスクの高まり、OPEC協調減産延長への期待、※シェールガスの増産観測等により、4月は1バレル50ドル近辺で推移。その後、下落基調で一時45ドル台まで値を下げても、OPEC減産と米シェールオイル増産の拮抗により50ドル前後での推移となった。向こう3カ月の見通し 原油相場の見通しでは、世界景気の持ち直しにより需要は底堅い。供給では、OPEC減産と北米シェールオイルの増産がほぼ均衡する形で、原油価格はやや上昇基調の50ドル台前半から半ばで推移する見込み。(エネルギー部)

### (石油等その他小売)

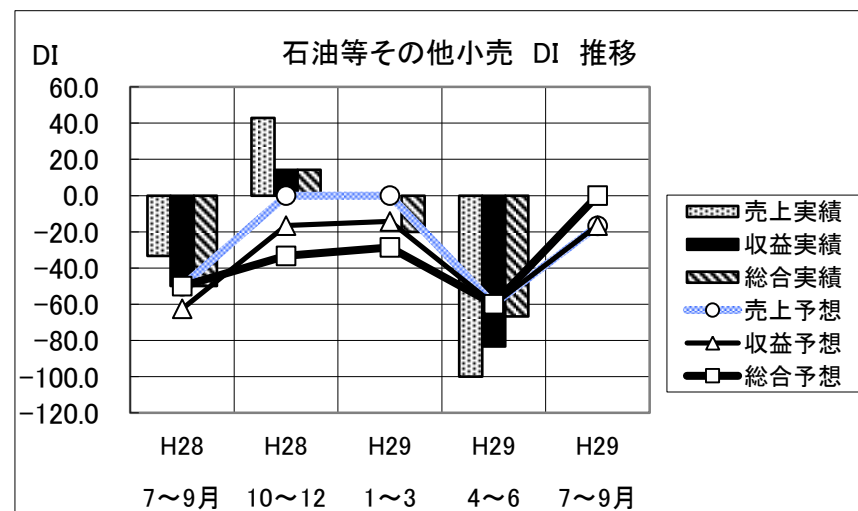
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-71.4	-100.0	-16.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	-50.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	-83.3	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-66.7	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
収益	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
総合	-33.3	-33.3	0.0	0.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-33.3	42.9	0.0	-100.0	-16.7
収益	-50.0	14.3	0.0	-83.3	-16.6
総合	-50.0	14.3	-20.0	-66.7	0.0

## サービス業

売上DI値は△30.0、前期実績1～3月期(△41.6)に比して11.6ポイントの上昇、収益DI値は△18.2、前期実績1～3期(△25.0、)に比して6.8ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△25.0)に比して25.0ポイントの上昇と、売上・収益は水面下ながら、いずれの数値も上昇となった。

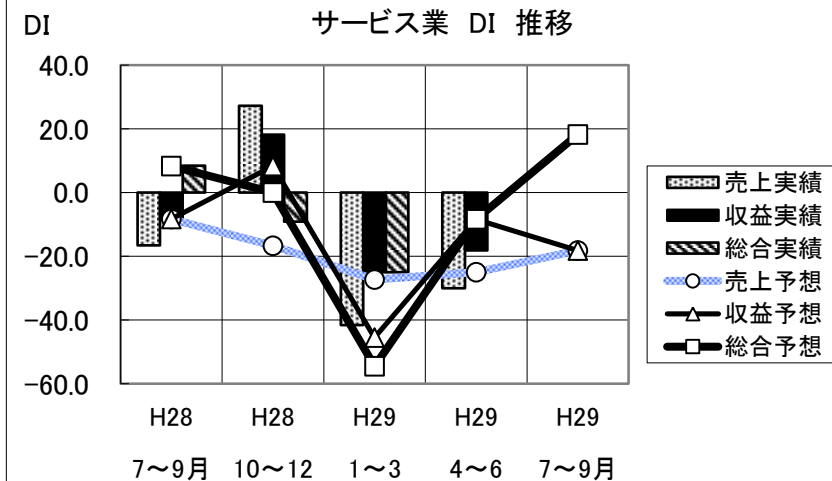
向こう3カ月の見通し 夏休みを含む観光最盛期を迎えて、売上・収益は水面下ながら横バイから上昇。総合は上昇・改善の見通しとなっている。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-30.0	-18.2
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	27.3	9.1	9.1
④採算(収益)	9.1	-18.2	-18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-27.3	-18.2	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	9.1	0.0	18.2

### サービス業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-16.6	27.2	-41.6	-30.0	-18.2
収益	-8.3	18.2	-25.0	-18.2	-18.2
総合	8.4	-9.1	-25.0	0.0	18.2

## 【旅館】

4～6月の宿泊者数ではインバウンド及び日本人ともに前年より1割程度の減少傾向となった。ラグーナ蒲郡エリアでの屋外イベントや、名古屋地区のレゴランド等の波及効果もあったと聞いている。あじさい祭りは各旅館がナイトツアーを行うなど積極的に活用している。インバウンドも団体から個人へとシフトが進んでいるが、日本の風情である「花」もニーズのある分野で、積極的に活用を進めたい。

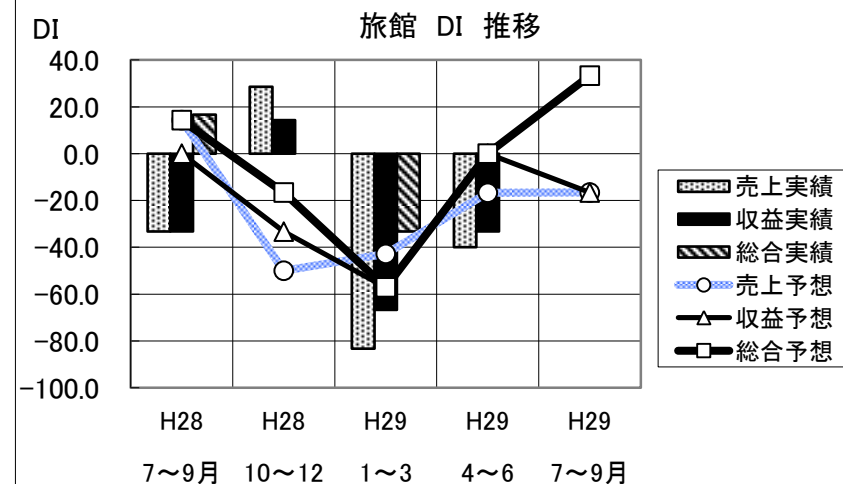
向こう3カ月の見通し 夏は当地区のトップシーズンとして、国内旅行を中心に例年並みを期待している。ラグーナ蒲郡エリアの「変なホテル」・「SHARES蒲郡」等の開発が進んでいるが、蒲郡全体のイメージアップに繋がる事を期待している。その他、ヨット関係のイベントや、来年以降の愛知県・JRグループの共同企画「愛知デスティネーションキャンペーン」に大いに期待したい(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7～9月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-40.0	-16.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	16.7	-16.6	16.7
④採算(収益)	0.0	-33.3	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.6	0.0	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	16.6	0.0	33.3

### 旅館 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-33.3	28.5	-83.3	-40.0	-16.6
収益	-33.3	14.3	-66.7	-33.3	-16.6
総合	16.6	0.0	-33.3	0.0	33.3

## 運輸通信業

売上DI値は△25.0、前期実績1～3月期(11.1)に比して36.1ポイントの下降、収益DI値は△25.0、前期実績1～3月期(△11.1)に比して13.9ポイントの下降、総合判断DI値は△12.5、前期実績1～3月期(△11.1)に対して1.4ポイントの下降と、売上・収益・総合とも下降となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに上昇する見通しである。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-25.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	12.5
③資金繰り	12.5	0.0	12.5
④採算(収益)	0.0	-25.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	-12.5	12.5

## [旅客・貨物輸送・水運]

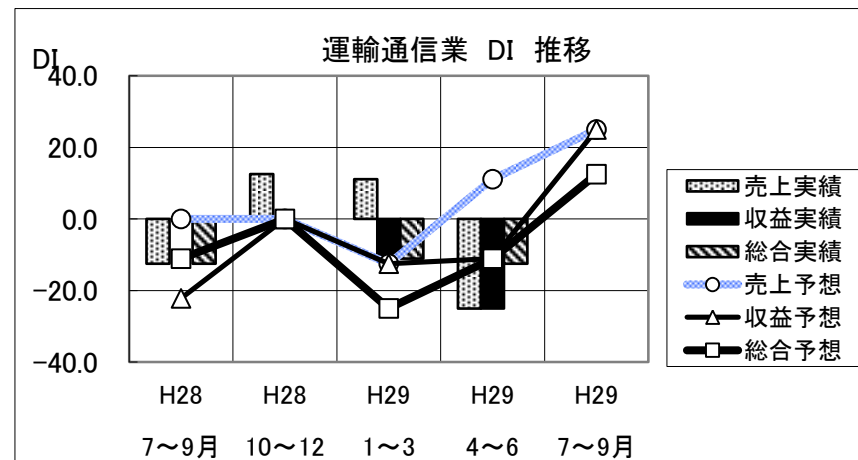
＜旅客＞ 貸切バス新運賃制度による少人数グループがバスから電車利用にシフトし若干マイナスも、旅行部門は前年並の推移。宿泊よりも日帰りが好調。向こう3カ月の見通し 個人旅行のウェイトが増える時期で、貸切バスはほぼ前年並み。予約は年々遅くなり、間際予約が増えている。

＜貨物輸送＞ 完成車輸出は月間平均8,000台強と前年同期比で微減。鋼材移入・海上コンテナ輸出は堅調。メタンハイドレート掘削の支援業務が開始された。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は平均月間平均10,000台程度まで回復する予測メタンハイドレート支援業務は終了するが、その他も堅調に推移する見込み。(運輸交通港湾部会)

## (旅客・貨物輸送・水運)

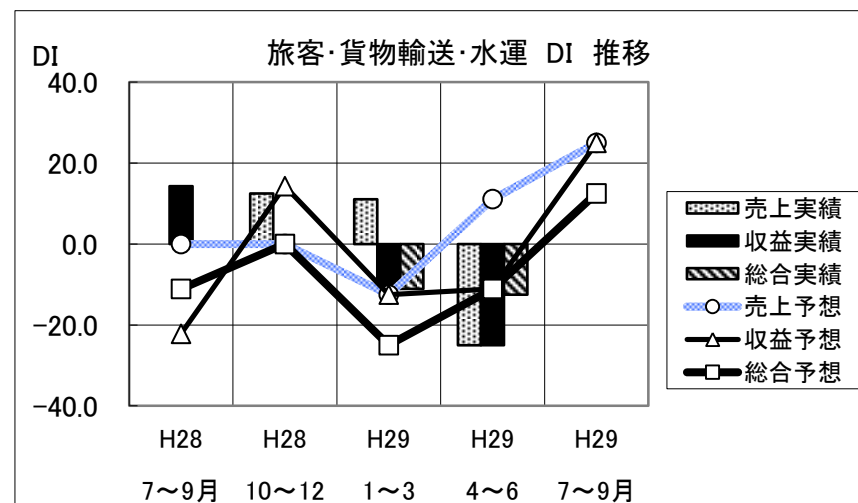
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成28年4月～6月 に比べて	前期比 平成29年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成29年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-25.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	12.5
③資金繰り	12.5	0.0	12.5
④採算(収益)	0.0	-25.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	-12.5	12.5



## ＜業況判断DIの推移＞

	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-12.5	12.5	11.1	-25.0	25.0
収益	0.0	0.0	-11.1	-25.0	25.0
総合	-12.5	0.0	-11.1	-12.5	12.5

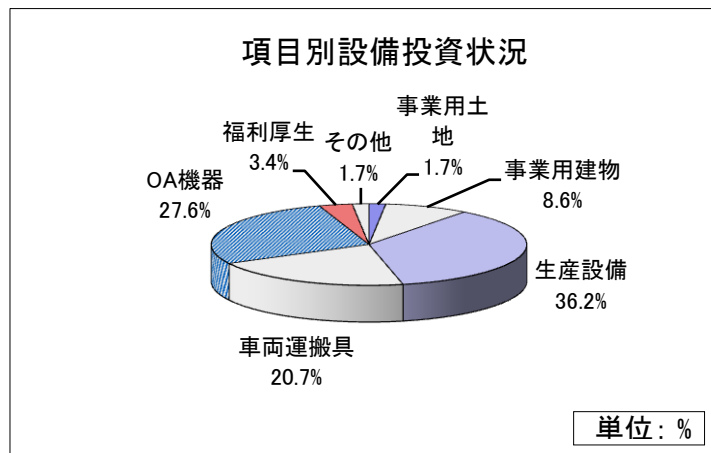
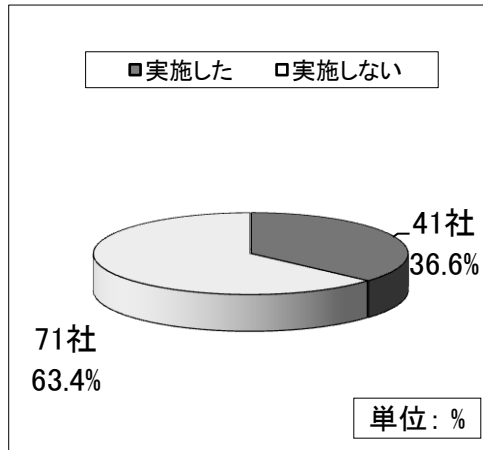


## ＜業況判断DIの推移＞

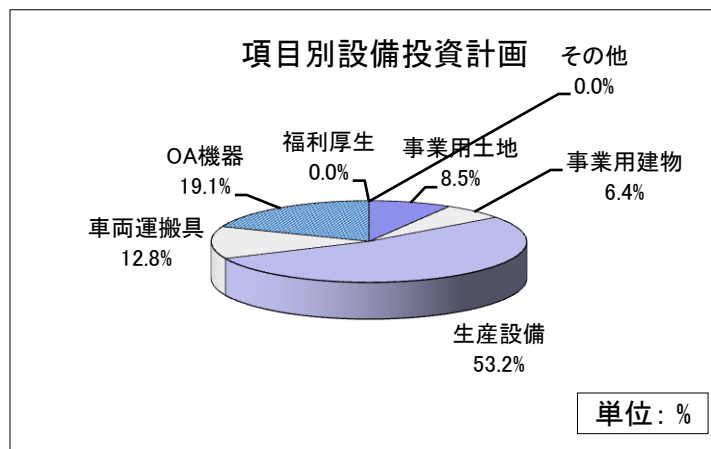
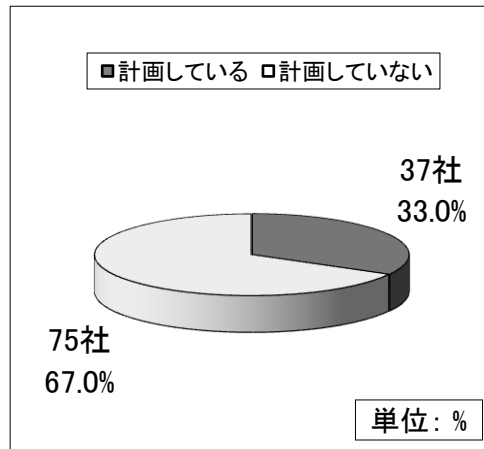
	7～9月	10～12月	H29.1～3月	4～6月	7～9月
売上	0.0	12.5	11.1	-25.0	25.0
収益	14.3	0.0	-11.1	-25.0	25.0
総合	0.0	0.0	-11.1	-12.5	12.5

## 7. 設備投資動向

＜今期(H29. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H29. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	1	4
事業用建物	5	3
生産設備	21	25
車両運搬具	12	6
OA機器	16	9
福利厚生	2	0
その他	1	0
計	58	47

(単位:件)

◎今期(H29.4～6月)、来期(H29.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H29. 4～6月)	41	25	4	0	3	5	4
2. 来期 (H29. 7～9月)	37	22	3	3	2	4	3

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 112 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	63 56.3%
2	利幅の縮小	52 46.4%
3	人手不足	37 33.0%
4	競争激化	33 29.5%
5	原材料(燃料)高	25 22.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	売上の停滞・減少 27 社 54.0%	利幅の縮小 25 社 50.0%	工場機械店舗の狭小・老朽化 18 社 36.0%
建設業 11 社	利幅の縮小 8 社 72.7%	売上の停滞・減少 6 社 54.5%	競争激化 5 社 45.5%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 11 社 68.8%	利幅の縮小 6 社 37.5%	在庫過多 5 社 31.3%
小売業 16 社	売上の停滞・減少 11 社 68.8%	競争激化 7 社 43.8%	利幅の縮小 6 社 37.5%
サービス業 11 社	売上の停滞・減少 6 社 54.5%	人手不足 5 社 45.5%	利幅の縮小 4 社 36.4%
運輸通信業 8 社	人手不足 6 社 75.0%	利幅の縮小 3 社 37.5%	原材料(燃料)高 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.75

番号	調査項目	単位	H29. 8報告	基準日	H29. 5報告	基準日	H29. 2報告	基準日	H28. 10報告	基準日	出典
1	人口	人	80,611	H29.6.1	80,703	H29.3.1	80,886	H29.1.1	80,958	H28.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,556		2,509		2,506		2,430		
2	世帯数	世帯	31,749	H29.6.1	31,614	H29.3.1	31,595	H29.1.1	31,520	H28.10.1	"
	(うち外国人)		1,202		1,168		1,175		1,128		
3	15才～65才生産人口	人	48,500	H29.6.1	48,794	H29.3.1	48,853	H29.1.1	48,964	H28.10.1	"
	(うち外国人)		2,110		2,097		2,079		2,015		
4	建築確認届出件数	件			115	H28.12月～H29.2月	132	H28.9月～11月	100	H28.6月～8月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.8	H29.6月	2.8	H28.3月	3.1	H28.12月	3.0	H28.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.5	H29.1月～3月	2.4	H28.10月～12月	2.1	H28.7月～9月	2.3	H28.4月～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.51	H29.6月	1.45	H29.3月	1.43	H28.12月	1.38	H28.9月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	1.06	H29.5月	1.02	H29.2月	1.02	H28.11月	0.96	H28.9月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より



全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	127.4	1.3	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	126.6	0.0	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	124.9	▲ 0.1	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	134.7	0.9	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	131.4	2.1	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	130.7	0.3	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	129.7	0.5	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	138.0	▲ 0.3	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.2	0.9	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	132.4	0.2	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	130.9	0.1	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	140.2	0.4	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成28年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	133.9	▲ 0.3	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481			▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51		87,456				31.5
7月									27.8

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。